- 身体障害者補助犬法とは
- 全国の施設に対するアンケート調査報告
- 補助犬 OK！の気持ちは、ステッカーで表示を
- 盲導犬とは

Welcome!! 盲導犬

『身体障害者補助犬法』を知っていますか

障害者の日常生活をサポートする犬として「盲導犬」が広く知られていますが、道路交通法による規定しかなく、宿泊施設や飲食店で同伴を断られることがありました。

また、「介助犬」や「聴導犬」については、法的な位置づけがなく、ペットと同様に扱われるため、公共施設や公共交通機関等への同伴が円滑に受け入れられない状況があり、身体障害者の自立及び社会参加に支障が生じていました。

こうした状況を踏まえ、身体障害者の自立及び社会参加の促進をはかるため、2002年 10 月「身体障害者補助犬法」が施行されました。この法律は、身体障害者補助犬の訓練事業者及び使用者の義務を定めるとともに、身体障害者が施設を利用する場合に補助犬を同伴することができるようにするためのものです。

補助犬法をよく知っていただき、あたりまえのこととして「補助犬」を受け入れる社会になることを願っています。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

身体障害者補助犬法案とは

1. 目的

身体障害者補助犬の育成とこれを使用する身体障害者の施設等の利用の円滑化をはかり、身体障害者の自立と社会参加の促進につながることです。

2. 補助犬の定義と認定

補助犬とは、「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」のことで、それぞれ国が指定した法人から認定を受けている犬のことをいいます。盲導犬の場合は、道路交通法に定められ、国家公安委員会が指定した法人が育成した犬のことです。

盲導犬

目の不自由な人のために道や施設の中などを安全に歩けるために段差や角があれば止まって教えたり、障害物を避けたりして安全に歩けるように助けてくれます。また、自分でも危険だと判断した場合は、盲導犬使用者が「ゴー（進め）」の指示をだしても進まずに危険があることをしらせるなどの仕事もします。

聴導犬

耳が不自由で普通に生活することがたいへんな人のために、玄関のチャイムを聞いて来客をしらせたり、電話の呼び出し音や、だれかが呼んでいる声が聞こえることをしらせたり、危険を意味する音などを聞き分けてしらせてくれたり、また音のするもののところへ連れて行ってくれたりします。

介助犬

手や足が不自由で普通に生活することがたいへんな人のために、物をひろったり運んだり、服の着がえを手伝ったり、立ったり歩いたりするときに支えたり、扉を開け閉めし、電灯などのスイッチを入れたり切ったりなど、日常生活をいろいろ助けてくれます。

補助犬たちのおおまかな仕事を紹介しましたが、役割は作業ばかりではありません。もちろんそのために訓練するのですが、補助犬利用者の家族の一員として、心の支えにもなってくれます。補助犬はペットではありませんが、人間とふかい関係をむすんでいるのです。

3. 補助犬訓練事業者の義務

訓練事業者は、補助犬として適性がある犬を選び、医師、獣医師等と連携し、これを使用する身体障害者の状況に応じた訓練を行い、良質な補助犬を育成しなければなりません。

4. 施設等における補助犬の同伴等

- 公共施設、公共交通機関、銀行やお店、宿泊施設など、不特定かつ多数の人が利用する施設の管理者は、その施設を身体障害者が利用する場合、補助犬を同伴することを拒んではいけないとしています。
- 補助犬には、その使用者のために訓練された犬であることを表示しなければなりません。また施設等を利用する補助犬を同伴・使用する身体障害者は、補助犬が他人に迷惑を及ぼさないよう、その行動を十分に管理しなければなりません。

5. 補助犬の衛生の確保

補助犬使用者は、その補助犬の身体を清潔に保つとともに、予防接種や検診を受けさせ、公衆衛生上問題が生じないように努めなければなりません。

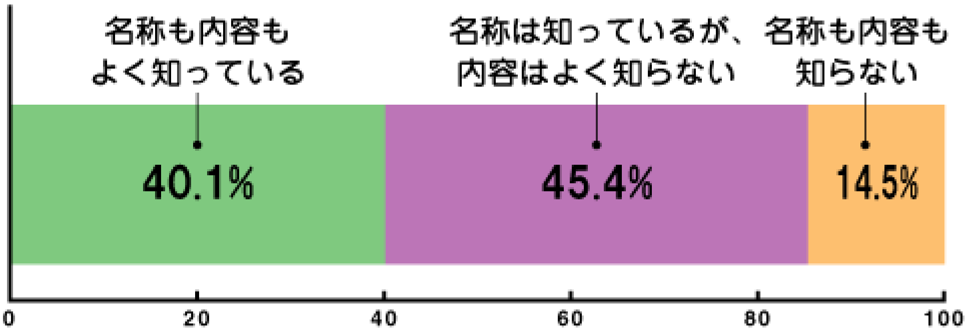
6. 国民の協力

国民は、補助犬使用者に対して必要な協力をするよう努めなければなりません。
なお、受入側の義務違反に対し罰則はありませんが、制度の意義を理解し罰則の有無に関係なく、積極的に補助犬同伴を受け入れてほしいものです。

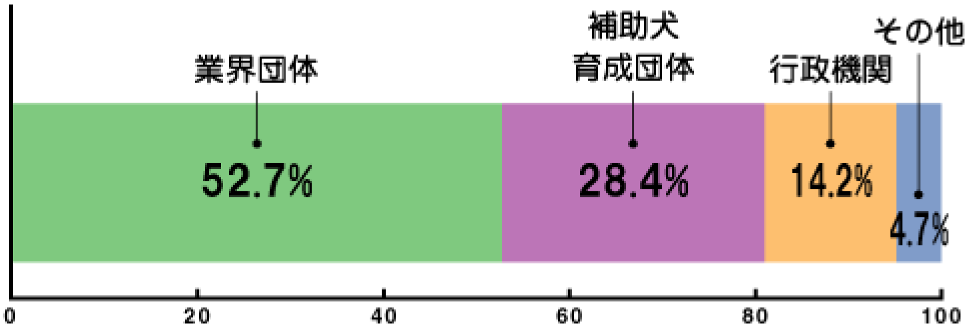
全国の施設に対するアンケート調査報告

【「盲導犬に関する調査委員会」事務局　関西盲導犬協会】

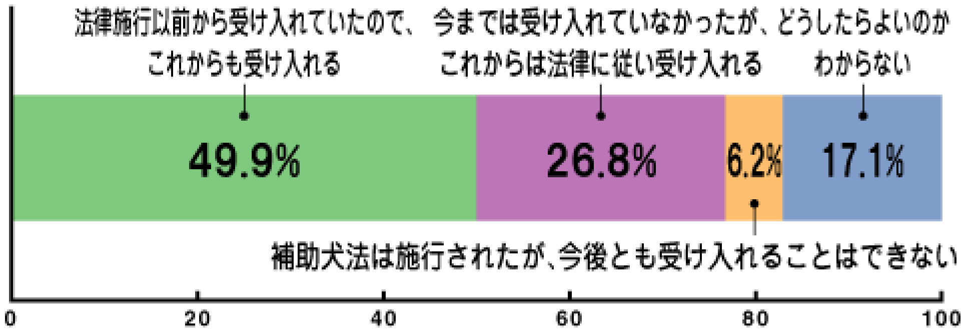
身体障害者補助犬法を知っていますか？



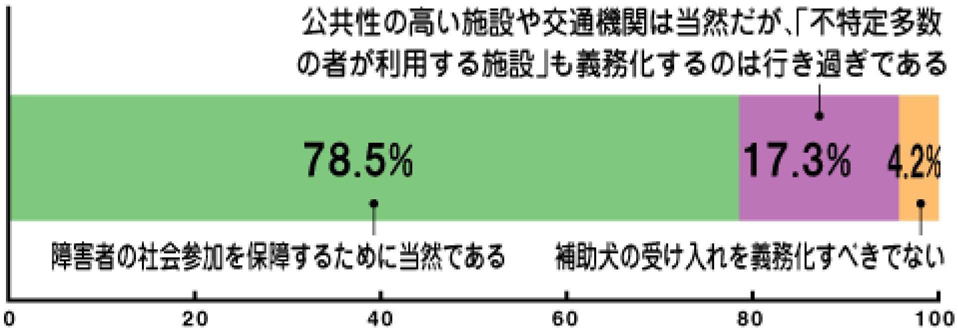
身体障害者補助犬法の情報源は？



障害者が補助犬を同伴する場合、受け入れについて今後どのようにお考えでしょうか？

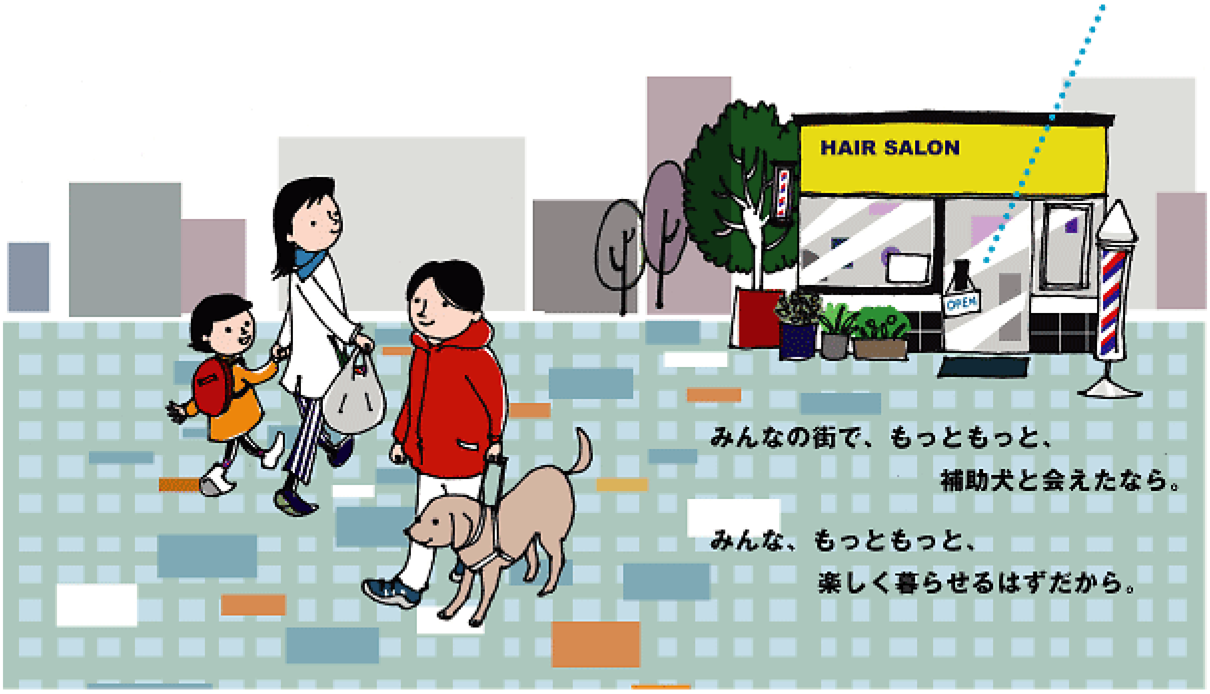


補助犬の受け入れ義務についてどう思われますか？



補助犬 OK！の気持ちは、ステッカーで表示を

全国盲導犬施設連合会では、身体障害者補助犬法の施行にあわせて、盲導犬だけではなく介助犬も聴導犬も受けいれるという意思を表示していただくため「補助犬同伴可ステッカー」を作成しました。本ステッカーは無料で配布しています。街中のあらゆる場所に温かい心を伝えるために、どうぞご利用ください。



盲導犬とは

盲導犬の仕事の基本は、視覚障害者と一緒に歩くときに遭遇するさまざまな状況の中で、使用者の指示に的確に応え、常に安全に誘導することです。

盲導犬が生まれてから引退するまで

（1）子犬の繁殖

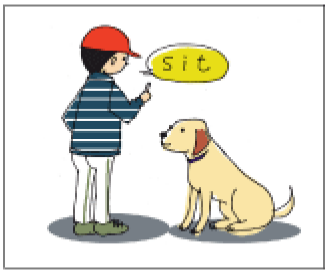
盲導犬に適する優良な犬を育てるために、計画的な繁殖を行い、子犬を確保します。盲導犬に使われる主な犬種は、ラブラドール・レトリバー、ゴールデン・レトリバーなどです。

（2）パピーウォーカー（子犬の飼育委託）制度

子犬は、生後 50 日前後になると、パピーウォーカーの家庭に預けられ、で約１０カ月間育てられます。子犬がパピーウォーカーの家族の豊かな愛情に触れ、家庭内における生活のルールや社会環境を学習し、明るく健康に、将来盲導犬として落ち着いて行動ができるように育てることが目的です。

（3）基礎訓練

約１歳になると盲導犬訓練施設に戻ります。施設に戻ると、まず盲導犬としての適性テストを行い、テストに合格した犬だけが基礎訓練（服従訓練）に進みます。「スワレ（Sit）」「フセ（Down）」「マテ（Wait）」などの指示を的確に聞き分け、人間のコントロールに従うよう訓練を行います。



＊盲導犬に対する指示語として、日本語を使う訓練施設もあります。

（4）誘導訓練

ハーネスをつけてまっすぐに歩く、交差点などでの停止、障害物を避ける、建物の入口や階段など目的物を探す、使用者の指示により安全を優先するための訓練などを行います。最後に訓練士がアイマスクをして歩き、盲導犬としての最終評価を判定します。

（5）共同訓練

視覚障害者は盲導犬と約４週間（初めて盲導犬を持つ場合。2 頭目以降の場合は 2～3 週間）盲導犬訓練所にて寝食を共にし、信頼関係と愛情を深めながら、盲導犬と歩行するときのコントロール方法、健康管理、使用者としての心得などを学びます。

（6）使用者とともに

共同訓練が終了すると、使用者とともに自宅に帰り、盲導犬との共同生活が始まります。使用者は盲導犬というパートナーとともに歩き、暮らしながら、自分らしいあり方で社会参加を実現しています。

（7）引退

盲導犬は、10～11 歳を目安に引退します。引退した後は、引退犬ボランティアの家庭で余生を送ります。盲導犬が引退した使用者には、優先的に次の盲導犬を貸与します。

街で盲導犬に出会ったときは

ハーネスをつけているときは、仕事中です。

ハーネス（胴輪）をつけている盲導犬には、声をかけたり、口笛を吹いたり、なでたり、気を引くようなことはしないでください。気がちると、安全に盲導犬ユーザーを誘導する仕事ができなくなることがあります。

ハーネスには、触らないでください。

盲導犬ユーザーはハーネスによって、盲導犬のようすや道の状況を確認します。ハーネスはお互いをつなぐとても大切な道具です。ハーネスに触られると、盲導犬ユーザーも盲導犬も判断を誤るおそれがありますので、ハーネスにはぜったいに触らないようにしてください。

仕事中の盲導犬には、食べ物を与えないでください。

盲導犬の食事時間はきちんと決まっていて、盲導犬ユーザーとともに規則正しい生活をしています。これはお互いの信頼関係と盲導犬の健康を保つためにとても大切なことです。かわいいと思っても、ぜったいに食べ物をあげたりしないでください。

どうぞ、あたたかく見守ってあげてください。

盲導犬は特別な訓練を受けていますから、吠えたりかんだりすることはありません。しかし、ときには安全のためや周りに迷惑をかけないために叱らなければならないこともあります。そんなとき、いちばんつらいのは盲導犬ユーザーです。犬が苦手な方も、大好きな方も、あたたかく見守っていてください。